

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季
外国語 (英語)		

【解答例 Ia, Ib】

Your answer to **【Question Ia】** : Choose all the summaries of the Section “Beliefs in Free Will”, which match with the content of the original text, by marking the numbers 1, 2, 3 with a circle [example 7→⑦]: 1 ②

3

⇒2のみが正答なので、2に○を付して→②と記す。(ただし、後掲のただし書きに注意)

Your answer to **【Question Ib】** : Mark by underline, as required. ⇒以下の赤線下線部のみが正答。赤線部分は、出題者が問題本文に無い、同じ著者の同じ章の中の文章を混入させた内容であり、本文の summary としては正しくない。基本的に、下線部を付した部分を全部、解答者が underline できていない場合、減点となる。

ただし、summary という性格上、Summaries 1, 2, 3 いずれも、解答者が『この summary のこの部分は original text の summary だとしても、original text の content と match しているとは到底言えず、かけ離れている。従って、問われている“do not match with the content of the original text”に該当するので、underline する』とする解答意図が読み取れ、かつ確かに summary のその部分が例えば：簡略に過ぎて“do not match”に採点者が該当する、と採点時に判断した場合は、得点とする。従って、例として：Summary 2 に○を付さなかったとしても、Summary 2 への underline が適切ならば、得点とする。

【I】 Summary 1: Despite psychologists’ long-standing interest in decision-making, research into the psychology of judging remains surprisingly limited, partly because legal reasoning—steeped in precedent and insulated from ordinary market incentives—stands apart from traditional psychological and economic models.

Summary 3: Judging is uniquely constrained by precedent, jurisdiction, evidentiary rules, and burdens of proof. Empirical research on judicial psychology is further hampered by the difficulty of simulating authentic courtroom decision-making and accessing reliable judicial data, much of which is rendered privately or with untraceable assistance.

【Ia, Ib: 出題の意図】

英語を英語で理解して、やや長文の、アメリカの法曹家(裁判官)が書いた英文を適切に読み取れる読解力を有しているか、および問題文の内容には無い部分を Summary で適切に発見する英語読解力をも有しているかを試験するのが意図である。特に、後者の「間違い探し」を精確に行えるか否かで、英語読解力を測る。

近年、多くの受験者は日本語を第 1 言語(いわゆる母語)としておらず、本出題者も近年に出題してきた「英文和訳」をさせることが、必ずしも「英語能力」を緻密に測ることにほならないとの見地から、問題本文、問い、問い

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季
外国語 (英語)		

の内容(この場合 summaries)も全て英語とした。

【解答例 II】

59 words (一般論過ぎて具体的論点がない、余り良くない例;但し英語の試験であり、英語は書けているので14/15点は与える): **My research examines the legal frameworks and social implications of divorce in China and Japan, analyzing differences and similarities in legislation, procedures, and outcomes. By highlighting both historical and contemporary perspectives, the study seeks to identify challenges and best practices, ultimately offering proposals to improve family law and promote fairer divorce processes in both countries.**

58 words (“best interests of the child under 10”という具体的論点もあるので、英語としても満点は与える): **My research compares divorce laws in China and Japan, focusing on legislative differences, procedures, and outcomes, with particular attention to children under 10. It emphasizes the best interests of these young children by analyzing relevant practices and challenges, and proposes legal improvements to ensure their welfare and fair treatment throughout the divorce process.**

【II: 出題の意図】

問題【I】のみでは、英語の読解力を測ることしか出来ない。その点を補う出題意図もあり、配点は15/100点と少ないが、自己が最も良く理解しているはずの大学院での研究計画を、短い英文で表す英語表現力を試験することが意図である。なお、英語の法律・法学用語が、研究対象の法・法制度と合致しないことは十二分にあり得るので、そうした英語用法は減点の対象としない:例:「過失」と“negligence”など。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季
外国語 (独 語)		

2026年度を含め、長期間入学者選抜を実施していないため、過去問題等の公開はありません。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季
外国語 (仏語)		

2026年度を含め、長期間入学者選抜を実施していないため、過去問題等の公開はありません。